

情報科学専門学校

平成 29 年度学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価会実施要領

日時	平成 30 年 8 月 30 日(木) 9:30~11:00	
場所	情報科学専門学校 7 階 708 教室	
参加者	学校関係者評価委員 外部委員	小川名 剛彦 (神奈川県情報サービス産業協会 常務理事 産学連携委員会委員長)
		長谷川 長一 (株式会社ラック プロフェッショナル・フェロー)
		松岡 秀和 (日経統合システム 執行役員 ソリューション事業本部長)
		和田 裕子 (情報科学専門学校 保護者)
	学校関係者評価委員 内部委員	川上 隆 (教務部長 国際交流)
		伊藤 泰宏 (業務リーダー 統括担当:学校運営・教育の内部質保証システム)
		那須 宗夫 (業務リーダー 1 学年担当:学生支援・社会貢献・地域貢献)
		山上 紀彦 (業務リーダー 2 学年担当:学生の受け入れ募集)
		小倉 正己 (業務リーダー 3・4 学年担当:学習成果)
		武藤 幸一 (業務リーダー システム担当:教育活動)
	濱口 和也 (記録係 教育環境)	
資料	・平成 30 年度学校関係者評価会 実施要領	

2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズ調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育理念は開学以来、明確に示されているが、必ずしも専門分野の特性が明確になっているわけではない ・生徒に対しては入学前にパンフレットを使用して説明しているが、入学後に全体周知する機会は設けられていない ・入学後の2週間の導入教育「基礎ゼミナール」の授業内で、上記について周知・徹底を図る ・保護者宛発送文書に上記ガイダンスの配布資料を同封する ・平成25年度より業界団体の有識者および学科ごとの専門分野に対応した外部企業の有識者からなる「教育課程編成委員会」を年2回定期開催。これにより業界の動向や企業のニーズに合わせて学科ごとの育成人材像を迅速に見直すことができる体制となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムを業務に有効に活用できているが、ネット出願、eラーニング等のシステムは実証実験の段階にある ・蓄積した教務データを分析し、業務改善に活かす基盤は未整備 ・ネット出願システムおよびeラーニングシステムを正式導入。従来の学内システムとのシームレスな連携が次への課題 ・LA(ラーニング・アナリティクス)に関する実証実験を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングを活用して授業の活性化を図っていることは評価できる。取得したデータに対して、ラーニングアナリティクス（学習履歴の分析）を行うことで、新しい発見を得ることができるだろう。

2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等カリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Doを意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム編成委員会および教育課程編成委員会は確実に実施されているものの、作成したカリキュラムが確実に授業科目に反映されていることを確認する仕組みが不十分である ・教員のスキルは採用時に確認しているほか、取得資格等も随時把握しているが、取得資格だけでは評価できないスキルを可視化する仕組みは不十分 ・今後はカリキュラム改訂の成果物を「学習ガイド(シラバス)」とし、カリキュラム編成委員会でレビューを行うこととする ・一覧性のある教員のスキルシートの導入を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の日経コンピュータの記事に中国のAI関連をテーマに起業の話が出ているように、起業家を育てる視点、新しい時代をつくっていけるような人材を養成できる視点が必要だと思う。例えば、コンピュータが大好きで、挨拶はできないが原石として才能があるような学生をどうやって磨いて、次の日本のIT社会を担っていくような学生を育てるようなテーマはないのかを考えていくべき。 ・AIやIoTをテーマに育てていくというのはその通りだと思うが、アイデアの何をビジネスに結び付けるのが気になる。深く学べるようなサポートが必要である。 ・現在セキュリティ業界では、ネットワークの通信の3分の2はコンピュータではない。AI、IoTの研究開発の現場では、コンピュータは触って。普段はIoT機器そのものを触っている。自動車は以前の話で、最近は家電や医療機器（オムロン・テルモ・オリンパス製の製品）を分解して調べている。学生との共同研究も行っている。センサーは特にたくさんの機器を分解・分析している。足りないのは分解・分析する人材。学校として、多様化する学生や多様化する学習内容に対応できる人材が必要

<ul style="list-style-type: none">・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか・職員の能力開発のための研修等が行われているか（研修等の効果进行评估し、文書で記録しているか）・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか		
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

2-4. 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理科では iCD のタスクと関連付けて到達目標を明確化しているが、他学科では取り組みが不十分である ・情報処理科以外の学科についても iCD のタスクと関連付けた到達目標の明確化を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回うかがった情報科学専門学校の出展状況では CEATEC 以外の展示会では企業に知られる機会がないと思う。もっと企業向けの展示会に出展してみてもどうか。 ・学校が時代にあわせて、変わっていく、変わろうとしているのに受け入れ側の企業が変わろうとしていないと強く感じた。会社としての利益を優先し、新しい取り組みが進んでいないと思う。学校の成果を企業に向けて知らしめていきたい。

2-5. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・来校した卒業生に対する支援は随時行っているが、組織的な取り組みには至っていない ・教室数の不足により、新規の高専連携案件を受けられていない ・H27年度より学園祭に合わせて卒業生交流会を実施している。その中で、卒業生のニーズ把握に努める。また、学校関係者評価委員会にて卒業生委員より意見聴取を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率が素晴らしい。大きな会社に就職させることが目的になっているように感じるが、学校としてどういった企業に就職させることを目的としているのかが気になる。 ・学生の就職の機会、支援体制（就職後のミスマッチを救えるような、離職後の再就職も支援できる）ことはできないか。新卒採用に限らず、キャリア採用にも力を入れている企業もある（情報科学の卒業生なら積極的に採用したいという企業もある）ので、学校としても支援体制があったら良い。

2-6. 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・備品は定期的に点検・更新を行っているが、卒業研究等での貸し出し対応等に柔軟に対応できていない面がある。 ・備品の管理台帳に「貸し出し責任者」、「利用目的」、「利用者」、「貸出期限」を追記し、貸し出しに対応できる体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-7. 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集活動は、適正に行われているか（例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか） ・ 履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・ 学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・ 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・ 評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・ 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・ 教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・ 学納金は妥当なものとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A0 入試の選抜方法を作文と面談としているが、作文が苦手な者の場合、分野に対する興味とやる気を十分にPRできていない面がある。 ・ A 特待生入試の共通問題を SPI としているが、必ずしも IT 技術者としての適性を正しく評価できていない面がある ・ A0 入試は作文に加え、アイデアシートを選択できる制度に変更 ・ A 特待生入試の共通問題はプログラマ適性を評価するオリジナル問題に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学選考の中で、入学者の主体性・意思を見ているのは良い。

2-8. 教育の内部質保証システム

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の視察や相互評価を行う制度はあるが、定期化されていない。また、教材やシラバスに対する相互評価体制が不十分 ・内部監査の進め方はまだ不慣れな点があり、自己点検評価以上の問題点の洗い出しが出来ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・去年よりも先生や学生が新しいことに取り組もうとしている。活動が活動活性化していることを感じる。また、今年の内容は特にわかりやすかったと感じた。娘は4年間本当に頑張ったと思う。頑張れた要因には、先生が同じ目線で考え一生懸命に接してくれたことがあると思う。

2-9. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の地域貢献は主に講座、コンテストの実施および学生のボランティア活動への参加である。地域社会に対する上記以外の方法での貢献形態が考えられるかどうか、ニーズの把握に努めたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-11. 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、入学を希望する留学生がおらず、留学生の在籍数は0名となっている ・海外の大学、専門学校等との交換留学、教育連携協定等について、調査を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

以上